

# 会 議 録

会 議 名	令和5年度（2023年度）第1回八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会
日 時	令和5年（2023年）5月19日 10時00分～12時00分
場 所	八王子市役所本庁舎 801会議室
出席者氏名	委員 山田 幸一委員、山城 江美子委員、田中 泰慶委員、千種 康民委員、鈴木 長一委員、井出 勲委員、澤井 菊男委員、添石 遼平委員、平川 博之委員、山内 英史委員、塚本 恵里香委員、荒井 雄司委員、村上 正人委員、下田 直啓委員、杉原 陽子委員（15名）
	臨時委員 秋山 純委員、福井 正樹委員、矢口 栄司委員（3名）
	事務局 福祉部 松岡 秀幸部長 高齢者いきいき課 吉本 知宏課長、辻 誠一郎主査、佐藤 潤一主査、森田 直樹主査、伊藤 茜主任、西山 愛主事 高齢者福祉課 富山 佳子課長、中村 鳩子主任、竹内 三枝専門職 介護保険課 中山 あずき課長、長谷部 晃一課長補佐兼主査
欠 席 者	0名
次 第	1 開 会 2 地域ケア推進会議 （1）令和5年度第1回地域ケア推進会議の進行内容について （2）地域ケア推進会議（マトリックス案） 3 報 告 （1）令和4年度(2022年度)補助事業実績について （2）令和5年度(2023年度)地域密着型サービス事業者公募の開始について （3）持続可能な介護予防に向けたプラットフォーム構築プロジェクトについて 4 その他 5 閉 会
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数	0人
配 付 資 料	次第 資料1-1 令和5年度第1回地域ケア推進会議の進行内容について 資料1-2 地域ケア推進会議（マトリックス案） 資料1-3 令和5年度第1回地域ケア推進会議 グループ分け 資料2 令和4年度(2022年度)補助事業実績について 資料3 令和5年度(2023年度)地域密着型サービス事業者公募の開始について 資料4 持続可能な介護予防に向けたプラットフォーム構築プロジェクトについて 意見書

## 会議の要旨

<p>森田主査</p> <p>平川会長</p> <p>吉本課長</p> <p>平川会長</p> <p>吉本課長</p> <p>平川会長</p>	<p><b>1 開会</b></p> <p>おはようございます。定刻になりましたので、令和5年度第1回八王子市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会を開会いたします。</p> <p>お手元にある資料、八王子市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会次第の裏面をご覧ください。今年度、事務局職員に変更がございますので、紹介をさせていただきます。私、高齢者いきいき課の主査をしております森田と申します。同じく、主任の伊藤と、主事の西山でございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>続いて、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>≪資料の確認≫</p> <p>次第</p> <p>資料1-1 令和5年度第1回地域ケア推進会議の進行内容について</p> <p>資料1-2 地域ケア推進会議（マトリックス案）</p> <p>資料2 令和4年度(2022年度)補助事業実績について</p> <p>資料3 令和5年度(2023年度)地域密着型サービス事業者公募の開始について</p> <p>資料4 持続可能な介護予防に向けたプラットフォーム構築プロジェクトについて</p> <p>意見書</p> <p>以上となります。資料の不足等ございませんでしょうか。</p> <p>次に、会議の公開、非公開についてですが、八王子市社会福祉審議会条例施行規則第4条及び八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針第12に基づき、原則公開となっております。また、公開することが適当でない認められるときは、非公開の決定を行うことになっております。</p> <p>それでは、ここから、八王子市社会福祉審議会条例第4条第3項及び第6条第6項の規定に基づき、議事の進行を会長に委ねさせていただきます。お願いいたします。</p> <p>平川でございます。おはようございます。まず事務局の方に、今日の欠席委員の数など、開催要件について教えてもらってもいいですか。全員出席でしょうか。</p> <p>欠席委員はいらっしゃいません。</p> <p>はい。傍聴の方もいらっしゃらないですか。</p> <p>はい。いらっしゃいません。</p> <p>ありがとうございます。では、本会は成立しておりますので、進めたいと思います。</p>
<p>平川会長</p> <p>富山課長</p>	<p><b>2 地域ケア推進会議</b></p> <p>それでは、次第に沿って議事を進行いたします。なお、臨時委員の方は、地域ケア推進会議に係る事項について、出席を認めます。</p> <p>(1) 令和5年度第1回地域ケア推進会議の進行内容について、(2) 地域ケア推進会議（マトリックス案）について、事務局からの説明をお願いします。</p> <p>それでは、本日の地域ケア推進会議についてご説明いたします。</p> <p>本日の地域ケア推進会議の説明をする前に、今後の地域ケア推進会議の今後の展開方</p>

針についてご説明をさせていただきたいと思います。資料1-1の裏面をご覧ください。今後の地域ケア推進会議の展開方針という資料でございます。

令和4年度ですが、第3回、4回では、自立支援型の地域ケア推進会議から抽出された課題から、重度化防止・自立支援に向けた地域課題を洗い出す作業にご協力いただいております。前回の第4回、入口、出口、それぞれの事業の流れに沿って、目詰まりとなっているところはどこなのか、何が問題なのか、何が足りないのかという課題の深掘りという点を意識して意見を出し合い、集約の場面につきましては、どうありたいのか、何が重要なのかというような議論にまで発展させていただきました。

令和5年度の第1回に当たる今回のテーマにつきましては、前回に引き続き、重度化防止・自立支援型の包括システムの充実に向けてというテーマで行ってまいります。総合事業の効果的な活用に向けて、自分の力で自分らしい生活を続けられる人を増やすために、地域、行政、私たちができることは何かという本題について、議論を進めてまいります。

次回、8月の第2回の地域ケア推進会議では、本日の意見を踏まえまして、事務局で課題を整理した上で、優先的、効果的、また重点化が必要な事項について意見交換を行い、今後の計画策定、事業計画、地域ケア推進会議のテーマ選定に反映させることを考えています。この、重度化防止、自立支援のテーマのまとめを、この第2回目の推進会議をめどとして、まとめを行いたいと考えております。

また、今年度の3回目以降の地域ケア推進会議につきましては、皆様にも意見をいただきながら、これまでに出された地域課題を踏まえて意見交換を行っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の意見交換について説明をさせていただきます。A3横長の資料1をご覧ください。入口支援の課題と出口の支援課題について、前回の皆さんの意見を整理し、マトリックスの一覧表にお示ししております。本日はこの課題の表を目安に、具体的な対策、目標について、意見を頂戴したいと考えております。

まず、入口支援課題につきましては、横軸には本人の要因、家族要因、環境的・地域的要因の3要素を大きく分けてお示しました。さらに、横軸、関心度、行動変容、環境条件などの段階ごとに分けまして、前回、付箋に皆様が書かれたキーワードを抜粋してお示ししております。

また、出口支援の課題につきましては、横軸に、心と身体、継続と習慣化、役割と仲間の再獲得という3要素に大きく分け、さらにメンタルサポート、身体機能の回復、継続意欲、生活習慣化、居場所や環境、目標へつながりというような、皆様に付箋に書いていただいたキーワードをお示ししております。それぞれ、模造紙に大きく掲示しておりますので、後ほどの意見交換の際に、そちらの模造紙を活用いただければと思います。それから、それぞれの模造紙にも、縦軸には主語、誰がということで、高齢者ご本人、家族、地域包括支援センター、医療、ケアマネなどの事業所、企業、行政とお示しておりますので、いつ、誰が、どこで、誰と、何を、どうすればよいかというのを、できるだけ具体的な解決策ですとか、「こうなったらいいな」、「こんなことができたらいいな」

<p>平川会長 千種委員 平川会長 千種委員</p>	<p>などの目指すべき目標や解決策などをイメージしながら、意見交換や付箋に具体策を記入していただいて、該当するところに貼っていくという作業を行っていただきたいと思っております。資料の1-1の表紙に目的と方向をお示ししておりますので、ご確認ください。</p> <p>本日、グループでの意見交換につきましては40分、全体のまとめの時間を15分で予定しております。なお、事務局の職員が各グループに数人ずつサポートに入りますので、ご了承ください。全体のまとめでは各グループ3分程度でご発表いただき、最後に杉原副会長、平川会長よりご意見をいただきたいと考えております。私からの説明は以上です。</p> <p>ただいまの説明について、ご質問ありますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>はい、どうぞ。</p> <p>去年度の目的と今年度の目的が、意見交換を行う作業的なところで終わっていますが、実際にはもう1歩進んだところに行かないといけないということが第一感であります。</p> <p>もう一つは、今日の資料もそうですが、資料1-2など、2枚ありますよね。それは委員の方たちの頭の中にある意見を反映しただけで、実際の行政側が持っている具体的なデータは、一切ここには入っていないですよ。なので、そうしたものも一緒に入っていると、より具体的に「どこに注力すればいいか」や、「そんなに頑張らなくてもいい点」などが分かりますので、そうしたデータもあったほうがいいと思います。前回から随分時間があつたので、その間にそういうデータがきちんと掲載されていると、より今日はどこを中心にやろうという話を、もっと具体的にできると思います。そうなったらよりよいと思いました。以上です。</p>
<p>平川会長</p>	<p>ご意見ありがとうございました。ほかにご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。様々な委員会がありますが、この委員会は出席するだけではなく、それぞれの立場の方々のご意見を伺うことが大事だと思いますので、ぜひ忌憚ない意見交換ができればと思っています。</p> <p>それでは、ここからは資料1-3「令和5年度第1回地域ケア推進会議グループ分け」のとおり、二つのグループに分かれて意見交換を行います。意見交換のテーマは、自分の力で自分らしい暮らしを続けられる人を増やすために地域、行政、私たちができること、制限時間は40分となっております。入口グループはこのままで意見交換を行い、出口グループは少し離れた場所へ移動して、意見交換を行ってください。</p> <p>《意見交換》</p>
<p>平川会長 添石委員</p>	<p>よろしいでしょうか。短時間でご意見交換ありがとうございました。それでは各グループの発表に移ろうと思います。まず、入口グループから発表をお願いします。</p> <p>では、入口グループを代表して、添石から発表させていただきます。</p> <p>皆さん、恐らくホワイトボードが見えないと思いますので、基本的にはお手元の資料を確認しながら見ていただければと思います。では、3分ほどお時間頂戴いたします。</p> <p>今回、入口支援課題としまして、本人要因、家族要因、環境・地域的要因と三つに分</p>

かれています。前回の話し合いの中でも一番ポイントが多かった本人要因のところスポットを当て、今回話を進めてまいりました。

実際に何をまず解決策としてしたらいいのかについてですが、まずは、本人が色々なものに参加する機会をつくっていくことが重要だろうという内容が、一番多く挙げられた意見でした。外に出る機会や色々な情報提供を受ける機会をつくる、そうした中で、では誰がそれを担っていくのかということですが、多くはやはり、地域が担っていくべきではないかという話になりました。実際に地域の中で、誰がどのように進めていくのかということまでは深掘りできませんでした。

また、地域がかなり重要視されている中で、情報を伝達する方法として、包括から情報提供したいことが沢山あると思うのですが、包括から情報提供できる方々は、本人からアクセスしてくるか、又はそういう場に出てくる方だけになってくるので、地域の中で主要人物なる者がいて、その方が包括とつながっていて、その方から色々な情報を流していくのもいいのではないかと。ご近所の中で重要人物となる人は、色々な人たちにおしゃべりをしたりですとか、地域の会合に出ていったりする方たちなので、そういう方が中心になって情報提供をしていくのもいいのではないかというお話もございました。

あとは、前回もお話が出ていたのですが、健康診断などの場を使いながら情報提供を進めていくと。検診の話だけではなく、その場を皮切りに、介護予防に関する情報提供もそうですし、面談が当然あると思いますので、その中で本人がどういうことをしたいのかを聞き出す、ニーズを聞き取るという試みも必要ではないかと。今、検診の時というお話をしましたが、そのほかにも、ニーズを聞き取ることはやはり重要だということで、自分から来られない方のために、訪問してくれた時にそうしたニーズを聞き取るのはいかがでしょうかというお話もございました。例えば、今、民生委員さんが悉皆調査等で訪問をしていますので、そうした場を使うことも一つかもしれないですし、別途、人的資源があればというお話だと思いますが、そうした訪問してくれる機会をつくりながら、個々のニーズを酌み出して行って、そのニーズを基に多様なサービスをつくっていく。結局、「私がやりたいことないな」となれば、サービスを提供できないわけですので、ニーズを受け取って、それに適した形で多様なサービスをつくり選択肢を広げることによって、何かしらやりたいものがある状況をつくっておくことが大事ではないかというお話もございました。

また、時間の関係もあるので少しにしますが、企業との関わりの中でということについて、情報の周知方法として、チラシやポスターなども企業を使って発信していく。例えば、スーパーやコンビニなど、生活の中で皆さんが必ず使う施設でチラシを配ってもらうようにすれば、幅広い人たちにそうした情報を提供できるのではないかというお話もございました。

あとは、狭い地域の中で、高齢化率が高い地域の中に、例えば、コンビニエンスストアのようなものをつくって、集いの場のようにしながら情報提供を続けていくことも必要ではないかというお話もございました。

千種委員

今、本人要因のお話だけだったのですが、家族要因についてここに少し関連するものとしては、高齢世帯のご家族世代ですね。例えば、30代、40代、50代ぐらいのレベルの方たちに、企業で情報提供をしていく。雇用している方たちに、福祉関係のお話をしたり、介護系のお話もそうだと思いますが、自分たちも歳を取ればそういう情報が必要になりますし、今、大体その世代のご両親というのは高齢者になってきますので、そうしたご家族の支援をするために情報を知っておくということも重要なので、そうした方たち向けに企業が情報提供をしていくということも、一ついいのではないかといいところが、家族要因のところに入るのではないかと思います。

お時間の関係もあるので、この辺りで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

では、出口支援として、千種が代表して発表させていただきます。よろしく申し上げます。

再自立した人が健康な状態を維持し続けるための課題として、A3の資料がありますので、それについて最初に聞いていただけたらと思います。

まず、今回の話で大きくテーマになったことは、個人の話と、仲間もしくは仲間づくりの話でした。個人の話で言うと、入口から出口まで一貫したビジョンがあって、本人が納得した上で取り組むといいのではないかといい話がまずあって、それは当然そうですよね。早め早めのサポートや関わりがあるといいという話がありました。

もう一つは、リハビリが終わってせっかく出たけれども、専門的な機械が多くて、自宅でもできないし、どこかに行ってやろうと思っても、そういう機会がなかなかないという現状があるので、やはり、シームレスなリハビリができる体制をつくる必要があるという話がありました。

さらに、日本が誇るべき母子手帳というツールがありますので、そのツールを高齢者版にして、高齢者がどこでどのようなことをして、どういう経緯でこうなったかという完璧な情報を入れて、それを活用することで、サポートする側も非常に有益な情報が得られて、よりの確な支援ができるという話がありました。それプラス、せっかく八王子が持っているツールのてくポがありますので、てくポを使って、総務省、国が言っているようなICT、DXの話を活用すると考えれば、その母子手帳をてくポのプラスアルファの機能として追加して、カルテルやポータル化して、色々な情報も発信できるようにしておくといいという話が出ました。

また、仲間の話については、せっかく外に、家庭に戻ったとしても、結構孤独なわけですし、特に、おそらく女性は仲間づくりが上手ですが、男性は仲間づくりが上手ではないという現状もあるので、そうした人が孤立しないようにするためには、仲間づくりの仕組みがあったほうがいいという話がありました。その一つとしては、通所している段階で仲間がいるわけですから、その仲間と出た後も共通で活動できるようにしたり、もしくは、地域で同じ興味を持った人たちの仲間を用意して、その中で活動していくといいのではないかといい話も出ました。

その一つとしては、やりがいもとても重要なので、砂場をよりいい環境に維持するた

<p>平川会長</p>	<p>めのサポート活動をしたり、みんなで毎日軽運動をして、年に何回か軽運動の運動会を目標にしてやっていくなど、そうしたことがあってもいいのではないかという話がありました。あとは、発表の場として運動会もあってもいいですし、それ以外でも、その地域ごとに発表して、様々ないい取組を共有できるような形にすると、広く広がっていく可能性もあるのではないかという話や、書面でまとめるだけでもかなり意味があると思いますので、そういうこともしていけばいいという話が出ました。以上です。</p> <p>はい。ありがとうございます。他に、リーダーのお話に追加したいことはありますか。ここも少し触れてほしかったということがあれば伺いますが、よろしいでしょうか。それでは、杉原副会長からコメント、ご感想をお願いします。</p>
<p>杉原副会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。皆様、短時間であるにも関わらず、活発にご議論いただき、ありがとうございました。</p> <p>今、入口グループと出口グループそれぞれ、非常に参考になる様々なご意見をいただき、私も勉強になりましたが、両グループで何か共通することがないかという観点から、お話を伺っていました。</p> <p>それで、これが妥当かどうか分かりませんが、何となく共通するキーワードとして、一つは「地域」、あともう一つは「情報」、もう一つは「多様な担い手」というキーワードが共通するのではという印象を受けています。</p> <p>まず1番目の地域に関してですが、入口グループから、参加の機会づくりのためにはやはり地域が非常に重要であり、元の生活場所に根づいた情報、社会活動への参加が基本になるため、地域のキーパーソンの方にもご協力いただきながら、地域をベースとした様々な参加の機会づくりや、それに関連する情報提供が重要というご意見が出ていたと思います。</p> <p>出口グループからも、結局、総合事業を受けた後は元の地域に戻るわけですから、元の地域で活動を継続できるような環境がないといけないし、そこで仲間がいけない。仲間と一緒にお互いに励ましながら、活動を継続できるようにということで、やはり地域というものが、入口にも出口にも重要なのだなと感じました。</p> <p>それから、2番目の情報について、入口グループからも、様々な社会参加に関する情報提供が非常に重要で、その情報提供は、例えば、検診の場を活用するなどして、様々なニーズを聞き取り、その人に応じた情報提供をすることや、民生委員さんを通して、というお話も出ていたかと思います。出口グループも、情報に関しては、八王子市さんは既に「てくポ」という、非常によいツールを持っていらっしゃる、「てくポ」の中でも、ただ歩数だけではなく健康管理のため情報提供、それも、個人に応じて自己点検ができるような情報が搭載されているようですので、そうした「てくポ」を活用する情報提供なども含めて、その後の健康管理の維持にも使えるというお話がありました。</p> <p>それから、3番目の多様な担い手ですが、入口グループからは、企業や、特に身近な、高齢者がよく利用するスーパーやコンビニなどを活用するというお話もありました。出口グループからも、高齢者自身が、総合事業を終わった後の人、あるいはそうではない人も含めて、高齢者自身が目的や社会貢献意識などを持つ必要があり、特に男性の方は、</p>

目的や社会に役立つような目的があると、やる気が出るのではないかというご意見もありました。そうした担い手として、高齢者自身も担い手になることができますし、例えば総合事業が終わった後の方も、特に地域に役立つような目標があるとより活動も継続しやすいので、そうした担い手としても関与していくという内容も、出口グループのご意見としてあったかと思えます。

少し雑駁な感想ですが、以上のように入口と出口それぞれ共通するキーワードがあると思えました。

また、今、総合事業をどのようにより発展させていくかというテーマだったかと思いますが、実際にリエイブルメントのプログラムとして、八王子市はどのようなことをなさっていて、どういう状況で、どういう課題を抱えているかが見えていませんでした。グループワークでは、もっとこのようなことをしたらいいのではないかという話をしていますが、実際はもうそれはやっているものもあると思えます。例えば、メニューの中で社会参加のためのプログラムを盛り込んで進めているけれども、こうした課題があるというようなことがあれば、その情報もいただけたらもう少し具体的な議論ができたと思えました。次回に向けて、事務局でご検討いただけたらと思えます。

先生、取りまとめありがとうございます。

私から伝えることはないですが、今まとめて下さった3点が議題になっているようですし、またこれを繰り返しても、この内容についてばかりになってしまうので、やはり情報をいただきながら、より具体的に進める形でできたらいいのではと思います。

また、これから先は担い手の問題も含めて、家族構成も変わってきますし、かなり違った景色になってくると思えます。今後の後期高齢者、団塊世代の方というのは、厳しい猛烈サラリーマンとして日本の経済を支えてきた方なので、色々な主義主張があるかと思えます。これから我々が注意しなければいけないことは、一律の方法で仕切ることではないのではないかということです。つまり、平均値を求めて、平均のど真ん中の方々を支えるという方法ではなく、外れ値の方も結構出てくると思うのです。これまでは、最大多数の最大幸福を狙ってきたのですが、これから先は、最大多数ではなく、最大多様な方々の最大幸福をどうするかということなので、根本的な考え方を変えて、そうしたのも右目で捉えながら考えていったほうが、せっかくなつくたのに少し外れたな、とならないのではないかと思います。

私からは以上です。時間がありますので、追加で何かあればいかがでしょうか。どうぞ。

入口の方ですが、色々なサービスが恐らくたくさんあると思えます。それをうまく活用できていない現状や、そのサービスになかなか結びつかない人に、どのように導入や動機づけをしていくのか。そこが、どうなのでしょう。実際の現場にいないので分からないのですが、昔からそういう場合には、地道にご本人に何回も何回も出向いて話をしていく。5回も6回もして、やっと何らかのサービスに結びつけたという話はよく聞きます。ですから、1回、2回でご本人に拒否されて終わらせてしまうのではなく、非常に根気よく、先ほどの地域のキーパーソンの方がいらっしゃると思えますので、そこ

平川会長

山田委員

平川会長

を踏まえて地道にやっていく。しかし、一人、二人では、恐らく話をして説明をしても、納得できない部分をご本人にあると思います。そこをどうしていくのか。多職種連携という言葉があると思いますが、そうしたことを考えた上でやっていくと。場合によってはその方のケース検討といいますか、その方を地道に支援していく上で、一人でも二人でも、何らかのサービスにつなげていくということが、恐らく、可能性としてはあるのではないかと思います。そのところは少し教えていただければと思います。

貴重なご意見ありがとうございます。

先ほど私たちの班でありましたが、私たちが子どもの頃は、世話好きのおばさんや、おしゃべりな床屋などがあって、地域の中で色々な情報を共有することができたのですが、今はそうしたものがなくなってしまって、町機能があまりないものですから。そうすると、それと変わって情報発信をするうえでは、ICT系をどう使うかという話になります。あとは先ほど意見がありましたが、どのように人が集まるか、どこに来るかを見れば、商店やスーパーもそうでしょうし、検診の機会もあります。今は高齢者も働いていますので、その会社の産業医の先生方もそうした視点を持って、健康寿命の延伸についてもアドバイスをするなど、どこかでその方にうまくストンと落ちることを言ってくれる方がいることが大きいのではないかと思います。これについては、市からいい回答があれば、いかがでしょうか。

吉本課長

高齢者いきいき課の吉本です。

今、皆さんお話いただいた中で、実際にもう動いている部分もあります。例えば、先ほど、母子手帳というお話がありました。総合事業の短期集中予防サービス、通所Cの中では、八王子健康手帳、略して八健手帳と言っていますが、その手帳で、本人と事業者さんとで交換日記のような形で情報のやり取りを共有して、ご本人の状況を通所Cの事業者さんに確認してもらおうということをしています。八王子市で行っている通所Cでは、マシントレーニングではなく、コーチングという形で、再自立、リエイブルメントに対してアドバイスをすることでご本人のやる気を取り戻すということを行っています。本人の気持ちや、できることをもう1回戻してもらいたいという視点で進めているものです。

それから今回、てくポの話を非常に多くの皆さんから出していただきました。この後、担当の辻主査から説明してもらいますが、てくポの中でも、先ほど杉原先生からもおっしゃっていただいたような、イベントの情報や企業のサービスの紹介、本人に合うサービスを紹介できるという機能も、今までの機能に追加して、昨年試行実施という形で取り込んで実証していました。これは、将来的に継続できるような形で今考えています。既に実際に行っていることをご説明したり、資料やデータをお渡しできていなかったという点は反省する部分だと思いますが、新たな視点のお話も今日いただいていますので、そこも高齢者福祉課と共有しながら、現在行っている次期計画の策定の中に積極的に取り込めるようにしたいと思っております。

また、先ほど少しお話があった個別ケースについては、多職種連携というお話もいただきました。実際に、個別の自立支援型の地域ケア会議では、個別のケースに対して、

他職種が集まってこういうことをできるのではないかなど、各専門職の様々な視点で意見を出して対応するというを進めています。ただ、実際に不十分な部分も確かにあり、通所Cに関して、日常生活圏域ごとにまだ利用の差が大きく、数字の実績が離れている状況です。なぜそうなっているのかについては、我々としても問題意識を持って、どうしたら解決できるのかを考えているところです。皆様方から、今日、貴重なご意見をいただきましたので、それも踏まえて、引き続き検討課題を出していただければと思います。ありがとうございます。

平川会長  
田中委員  
平川会長  
田中委員

課長、ありがとうございます。

少しよろしいですか。

どうぞ。

先ほど出口の支援のグループでは少しお話をさせていただいたのですが、実は私、腰を痛めたので、要支援1ということで、通所Cに通った経験があります。去年の8月から9月、10月にかけてです。少しでも楽にするようにということで大股で歩いたり、バランスを取るために下に敷くゴムのマットのようなものがあって、それを歩くとバランスが取りにくいというようなものもあって、リハビリのような感じで、ツールを使いながら3か月間やっていただきました。ただ、終わって、そうしたツールでまたやりたいと思う反面、ツールが身近にないのです。身近にツールがあれば、そこへ行ってまたやってみようということになりますが、なければそれで終わってしまいますし、現実私はそれで終わってしまいました。せいぜい少し大股で歩くなどは心がけているのですが、そのようなことがありましたので、出口ぐらいまで来ている人たちには、通所Cの事業者のところで行ってやるとしても、3か月たって卒業した後にそうした場があればいいのではないかと、切実に思っています。ですから、よく通所Cの最終的な判断をいただきながら、今後はこのようにやってください、こうした形で努力してやってくださいという、そうしたアドバイスも含めていただければ、恐らく通所Cを卒業した後でも少しずつ改善できるようなことがあればやってくれると思います。ここで少し考えていただければと思いますし、通所Cを経験した人のリストをつくっていただいて、各包括でそれを把握してその人たちを今後どう見守り、サポートしていくか、もちろんサポートする人材も必要かもしれませんが、そうしたところに注力していけば、今後介護予防にかなり有効につながっていくのではないかと思います。

吉本課長

ありがとうございます。田中委員がおっしゃるとおりで、通所Cを卒業した人たちのその次の場がないという話について、その次のつなぎ先をどうするかというところは課題として我々も認識を持っています。それが今まだ1か所しかないのですが、リエイブルメントセンターという形で、住民主体の通所Bという形で1か所つくっています。これを各地域にもっと広げていければ、通所Cを卒業された方が次に行く通いの場として活用できるのではないかと、我々もどのように通所Bを広げていくかは課題として認識しています。これを何とか広げていけるように、その担い手となっただく方を今養成して、通所Bの担い手となっただけの方が養成できれば各地域に広がっていける。そうすれば、通所Cを卒業された方が次に行く先になる、というルート

<p>田中委員</p> <p>平川会長</p>	<p>で今考えておりますので、これを何とか積極的にやっていきたいと思っています。</p> <p>それからもう一つ。てくポというのがありますよね。てくポは今後、みんなに参加してもらうように、それはそれで進めたらいいと思います。</p> <p>てくポは後ほど話がありますよね。ありがとうございます。そうですね、卒業生をどうするかは大事だと思います。ただ、全部が全部シェアできるわけではなく、これから先は逆に田中委員に指導者になっていただいたり、カーブスやc h o c o Z A P等民間も使うなど、色々なものを使わなければ全て対応することは不可能なので、欲を持ってもっと健康になりたいというモチベーションを高めていくことが大事ですし、様々なものを多様に組み合わせることが大きいと思います。そういう意味では協力しあうことが大事になりますね。</p>
<p>平川会長</p> <p>佐藤主査</p>	<p><b>3 高齢者福祉専門分科会 報告</b></p> <p><b>(1) 令和4年度(2022年度)補助事業実績について</b></p> <p>それでは、議題を先に進めたいと思います。これを持ちまして地域ケア推進会議の事項を終わり、次は高齢者福祉専門部会の報告事項に進みます。報告1として、令和4年度(2022年度)の補助事業実績について事務局から説明をお願いします。</p> <p>高齢者いきいき課の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、令和4年度における補助事業の実績についてご報告をさせていただきます。資料2、A3判の横の紙になりますが、そちらをご覧ください。</p> <p>まず全体として、施設整備と開設準備経費について報告をさせていただきます。施設整備ですが、こちらは施設を整備することに充てられる補助金です。開設準備経費、こちらは主に施設の開設に当たって備品の購入などに充てられる補助金ということでご説明させていただきます。</p> <p>まず、表の一番左に項目がありますが、その項目の上から三つ目、整備区分というところがございます。その整備区分の欄の横に大規模改修と書いてあります。大規模改修の内容についてですが、項目の一番下の改修内容というところをご覧ください。主なところで言いますと、外部改修の工事や内部改修工事、空調設備の工事や電気設備の工事などになります。これは建物の老朽化に伴う改修工事です。令和4年度の大規模改修に関しましては、養護老人ホームが1件、介護老人保健施設が1件でございます。</p> <p>続きまして左から三つ目、施設名称は特別養護老人ホームの清明園さん、こちらにつきましては移転改築になります。令和2年10月に着工した工事が令和4年5月に竣工を迎え、令和4年7月1日にオープンをしております。その欄の大きなところを見ただけですと、令和5年7月31日事業完了予定と書いてありますが、こちらについては旧館、古い建物の解体工事がございますので、まだ工事が続くということで本年7月31日ということになっています。</p> <p>続きまして、その右になります。新規の開設というところでは、こちらは花物語はちおうじ南というところにつきましては、令和5年3月竣工を迎えています。グループホーム幸せふくろう八王子左入、グループホームさんのうにつきましては、グループホームと小規模機能の併設で、令和6年の竣工を予定しております。</p>

平川会長	<p>続きまして、そのさらに右になりますが、こちらからは開設準備の経費ということになります。特別養護老人ホームの清明園、永生病院介護医療院の2施設では、こちらの経費を使いまして備品の購入を行っており、既に施設のほうは開設をしております。</p> <p>報告は以上になります。</p> <p>ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご質問はありますでしょうか。</p>
平川会長 吉本課長	<p><b>(2)令和5年度(2023年度)地域密着型サービス事業者公募の開始について</b></p> <p>続きまして、(2)令和5年度(2023年度)地域密着型サービス事業者公募の開始につきまして、事務局から説明をお願いします。</p> <p>では、私から説明させていただきます。令和5年度(2023年度)地域密着型サービス事業者公募の開始について、資料3をご覧ください。</p> <p>今年度は、第8期介護保険事業計画の期間である令和3年度から令和5年度の最終年度となります。最終年度に当たりまして、この地域密着型サービスの提供事業者を公募して選定を行うということになります。</p> <p>2の公募内容でございますが、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所、こちらを1か所、昨年度と同様です。(2)、小規模多機能型居宅介護事業所又は看護小規模多機能型居宅介護事業所、こちらは昨年度に比べて1増の2か所の公募になります。(3)が認知症高齢者グループホーム、こちらも昨年度同様2か所ということで、第8期計画中の6か所の計画になっていますので、3年度、4年度と2か所ずつ選定が済んでいるため今年度最終的に2か所という形の公募になります。</p> <p>その他の夜間対応型訪問介護や認知症対応型のデイサービスセンター等は、公募は行っていませんが、整備意向があった場合には別途相談を受けることで対応をしていくことになっております。</p> <p>3、公募開始日について、令和5年4月3日から公募を開始しておりまして、4、受付日程について、1回目の締め切りが6月2日、第2回が9月15日となっておりますが、第1回の公募で定数に達した場合には第2回は実施しないということになっております。</p> <p>裏面をご覧ください。前年度との主な変更点なのですが、東京都の補助金が認知症高齢者グループホームの整備について、建築費高騰への対応で1ユニット当たり50万円増額されております。最大3ユニットまで整備できますので、最大の3ユニットですと150万円増額という形の補助になります。</p> <p>6、審査スケジュールですが、第1回の締め切りが6月中旬、こちらを庁内において一次審査をしまして、7月13日に施設整備審査部会を開催してこちらで審査を行います。7月下旬に事業者決定となります。もし第1回締め切りで応募が足りなかった場合には第2回をこのスケジュールで行うということになります。今現在、正式な応募はまだ事業者からはないのですが、数件問い合わせや応募書類の記入方法の相談などは受けている状況でございます。改めてまた施設整備審査部会を開催することになりましたら、委員の皆様にご出席いただき、昨年度は応募数が多かったものですから、ほとんど一日がかりになってしまった審査でしたが、今年度またそのぐらいの数が来てくれると私と</p>

<p>平川会長 吉本課長 平川会長</p>	<p>しては期待しております。 説明は以上でございます。 説明ありがとうございます。一応これで開始するということによろしいのでしょうか。 はい。 ありがとうございます。</p>
<p>平川会長  辻主査</p>	<p><b>(3)持続可能な介護予防に向けたプラットフォーム構築プロジェクトについて</b> では次に行きます。(3)持続可能な介護予防に向けたプラットフォーム構築プロジェクトについてお願いします。 はい、高齢者いきいき課辻からお話いたします。 先ほど何度か話題に挙げていただいたてくポについてですが、今年度からほかの新たなプロジェクトと連携しながら新しい展開を進めていますので、ご説明をいたします。どのようなものかというお話は1回分科会でしておりますので、かなり省略させていただきます。概要を記した資料を別途皆様にご提供いたしますので、それで対応させていただきます。 てくポが始まったのは3年前、コロナが始まった時期なのですが、今までどおりに人が集まることが難しい中で、高齢者15万人に対して我々職員はせいぜい数十人、この中で「焼け石に水」にならないやり方を考えたのがてくポです。大事なことはみんなが自分で自分の健康を守るような習慣です。そのためには、やはり「人が増えるほどお金と人手がかかる」という仕組みだと限界があるということで新しい仕組みを考えました。ICTを使うことは一つの方法なのですが、それだけだと、人が増えれば増えるほど結局お金がかかってしまいます。そこを何とかしたいということが、ほかの市で行っているようなポイント制度とてくポの一番の違いです。 どのようなものかといいますと、歩いたり食べたり脳トレしたりすることでアプリ内のポイントがもらえる、「脳にいいアプリ」というものがありまして、無料で使えて皆さんも今すぐインストールできるものです。これを八王子市で実際に使えるポイントとして貯められるようにすることで、さらに具体的に高齢者の健康維持のモチベーションを高めています。運動・栄養・社会参加のそれぞれについてポイントがつくことで、楽しくお得に健康づくりを習慣化してもらいたいという思いがあります。もともと健康に関心がある人ばかりがやっている介護予防ではやはり限界がありますので、健康が目当てではない人も入ってくるということも、ポイント制度の一つの効果だと思っています。 使い方や貯め方などについてはここでは省略させていただきます。先ほど口頭で説明したように色々なことでポイントが貯まり、市内のポイント利用店で使うほか、Pay Payに返還して使うことが可能です。実際に令和3年度のデータから、ポイントがつくかどうかで脳トレを真面目にやるかどうかが変わってくるということが分かっています。 続いて登録者数ですが、昨年度からオンラインで完結するようにしたこともあり、昨年度末時点で3,275人となりました。今年度からは早いうちに介護予防習慣をつけてもらうため60歳から登録できるようにしたところ、もう4,000人を突破してお</p>

ります。登録者の内訳としては、60代前半が今年度から始まったばかりなのですが全体の1割になっています。今年度の登録者は半分が60代前半という形になっています。ボリュームゾーンとしては恐らく60から74になっていくのではないかと考えています。注目したい部分が左側、男性の参加率が4割というところです。通いの場やサロンなどは9割、10割が女性ということも多く、男性が参加する介護予防の取組は今まであまりなかったもので、そういう意味でも期待が持てるのではないかと考えています。

とはいえ、今のままではまだまだ課題がございます。ユーザーにとってもっと使いやすい制度にしないと、例えば5万人使って5万人がみんな分からないことを市役所に電話すると我々がパンクしてしまいます。もっと使いやすくすることや、ユーザー同士でサポートしあえる仕組みなどが大事です。

また、ポイントの元になるお金について、今は市が国や都の補助金から出していますが、将来はこの事業の中で稼げるような仕組みにしないと、結局市役所がお金を使い続けることになってしまいます。こうした問題が幾つか出てきております。

そこで、今年度本格的に実施を始めるのがまずウェルネスプラットフォームというものです。今左に出ているものが既存のてくポの枠組みです。このてくポの中では、その人の歩いている速さやよく食べているものなどが出てきます。そうしたデータを使いながら、最近歩行速度が落ちていてタンパク質をよく取っていない人には、例えば「デニースにこうしたメニューがありますよ」、「近くのイトーヨーカドーでこんな面白い講座やっていますよ」など、その人の趣味や課題にあった企業のサービス・イベントを紹介する。これによって高齢者により楽しく効果的に健康づくりをしてもらうだけでなく、企業からてくポの運営側が広告料としてお金をもらう。このようにお金と情報の循環によって、行政がお金を出さなくても自主的に回る仕組みにしていきたいということがこのウェルネスプラットフォームの狙いです。

さらに、EBPMプラットフォーム、こちらはデータの関係です。市は、医療や介護のデータという大事な個人情報も扱っています。こうしたデータとてくポの歩行量などのデータを、安全に結合して分析する仕組みをつくらうと考えています。これによって、例えば2020年から2023年にてくポを使った人に対して、使っていない人のうち2020年に同じぐらいの状態の人をデータから選び、3年後の変化を観察する。さらに色々なビックデータからこうした状態の人が将来どのぐらい医療費や介護費を必要とするかを推計する。これによって、てくポを3年間行ったことでいくら行政のお金が浮いたのかという費用対効果を、数字で示すことができるようになってきます。

何でこうしたことをしたいのかというと、てくポは基本的には市役所の手を離れて回るものにしたいとは思いますが、やはり市と関連する事業として市民の皆さんが信頼してくださっていますので、市場サービスを何でもかんでもお勧めするわけにはいきません。ちゃんとデータに基づいて効果にあるものを勧めたいと考えていますので、医療介護のデータ、そしててくポと連動した色々な市場サービスのデータ、これをちゃんとつなげて分析することが必要になってきます。

あとは、てくポに限らず、例えば市が行っている介護予防の教室なども、教室に10

人來たら介護の費用が50万円浮くと分かれば、どんどん外部に委託して規模を広げることができる。逆に費用対効果がないのであれば事業としては考え直すなど、こうした形で限られた資源でたくさんの人を健康にする事業をどんどんつくっていくことができるのではないかと考えています。お金の計算の話ばかりとよく言われてしまっていますが、費用対効果を考えて、ちゃんと根拠を持って事業を進めていく仕組みも重要だと思っています。

あとは、てくポにはボランティアをするとポイントをもらえる仕組みがついているのですが、せっかくなのでアプリの中でボランティアを探せるようにしたいと思っています。ボランティアだけではなくお仕事もそうなのですが、やはり誰かの役に立っている、貢献しているという実感は、心と頭の健康にとっても大切です。なので、その人に合った活躍の場をご提案できるような仕組みもつくりたいと思っています。シルバー人材センターやボランティアセンターなどでこうした活動のマッチングをしてくださっていますが、Uber Eatsのような単発短時間のお仕事のマッチングは、どうしても会員制のシステムだとやりにくい。そのため、今の時代の高齢者のニーズに合った新しいマッチングの仕方を研究する事業を、てくポと連動する形で開始します。

最終的には、ウェルネスプラットフォームとEBPMプラットフォームにより、楽しく健康づくりをできるようなサービスを、根拠を持って勧めたい。そしてその健康な方々がジョブ・ボラマッチングで楽しく誰かの役に立つ。これができれば、高齢者が多くなって地域の手が減らないで済みますので、こうした仕組みを連動させていくことで新しい社会をつくっていきたいと思っています。

どのような社会か簡単に言うと、高齢者が自分のお金で楽しく健康づくりをする。一言で言うとこれが一番いいのではないかと考えています。そして、健康づくりと趣味も兼ねて、誰かの役に立ったりお金を稼いだりしていただきたい。自治体の役割はみんなが楽しく自分でできるような環境を整えることです。先ほどから〇〇プラットフォームと名前をつけた事業が多いと思いますが、まさにこの基盤を整備するというのが一番の役割です。

ただそうはいっても、お金を出さない領域、出せない領域はあります。みんながお金を持っているわけではありませんので。そうしたところについても、ちゃんと根拠をもって、費用対効果を確認しながら市として事業を進めていく。そのように自分たちの役割を見直すきっかけにしていきたいと思っています。

介護人材不足は何よりも我々が心配していることなのですが、地域の担い手不足も重要です。活動している人たちが平均年齢70を超えているような状況になるとなかなか若返りは難しいので、色々な人が地域に関われる環境をつくっていきたいと思っています。これから日本を追いかけて世界中がどんどん高齢化していくことになりますので、ほかでも使えるようなモデルになっていくことで、八王子発で世界がよくなると考えると、すごく夢のある話ではないかと思っています。

駆け足の説明にはなりましたが、お配りした資料に基づく説明は以上です。てくポとは何かはまだじっくりきていない方もいらっしゃるかと思いますので、パンフレットを

平川会長	<p>ご用意いたしました。そこで職員が持っておりますので、お帰りになる前にお持ちいただければと思います。</p> <p>私からの説明は以上です。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございます。議題にもかなり関連する話だと思いましたが、よろしいでしょうか。これで今日の議題が、情報提供も含めて終わりましたが、最後に委員で何かご追加等ございませんか。</p> <p>では、私のほうから、お手元に冊子をお配りしました。「実地医家における高齢ドライバーの指導ガイド」という堅苦しい名前ですが、その一番後ろのほうにあとがきが書いてある通り、この冊子を作ったのは、今は高齢者による事故が多く、免許の返納や、運転をやめようという流れになっています。ご遺族のことを考えればそれもよく分かりますが、その一方で、運転は結構大切で、特に八王子のような広域な地域の場合、車がないと一気に活動範囲が狭まります。それこそ先ほどから話が挙がっている、どう表に出させるのかということともつながりますが、活動が減ると心身機能が落ちてしまうため、できる限り運転寿命の延伸が必要だと。健康寿命の延伸という言葉がありますが、健康寿命の延伸をしたいと思って私が勝手につくりあげた委員会で、有名な精神科の教授を据えて、様々な分野の方々につくってもらいました。基本的には医者には運転免許返納の診断書を書いてくれと言うと嫌がるのです。そのため、どんどん疾患センターに回されてしまって結構大変なので、機械的に車を取り上げるのではなく町の先生方にも正確に診断してもらおうと。人間は知らず知らずのうちに視野が狭くなっていきますが、それが分からないので、そうした見極めるポイントや、医者の診断の仕方について書いてあるのと同時に、運転をもっとうまくするためのリハビリについてなどの情報についても広く入れ込みましたので、欲張ってもものすごい厚さになってしまいました。全てこのQRコードに落とし込んで、ここを見れば深掘りできる仕組みになっていますので、もしよろしければと思い今日は参考程度にお配りしました。この委員会もそうですが、前に前に、諦めるな下がれではなく、というのは私自身もそう思っていますので、そこから作りあげました。</p>
平川会長 森田主査	<p><b>4 その他</b></p> <p>それでは、連絡事項について事務局からお願いいたします。</p> <p>本日の会議内容につきまして、ご意見等ございましたら意見書ご記入の上郵送・ファクス・またはEメールにて会議終了後1週間以内に事務局までお送りください。また、本日の議事録につきましては、後日委員の皆様へ送付させていただきますので、内容のご確認をお願いいたします。</p> <p>次回日程につきまして、令和5年8月18日金曜日、午前10時から同じくこの場所市役所本庁舎801・802会議室にて開催を予定しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。連絡は以上です。</p>
平川会長	<p><b>5 閉会</b></p> <p>それでは以上で本日の会議は閉会とします。ありがとうございます。</p>